森戸辰男

もりと・たつお

社会政策学者、衆議院議員、文部大臣、広島大学学長、
中央教育審議会会長、日本育英会会長、日本ユネスコ国内委員会会長、
NHK 学園高等学校校長、文化功労者、広島市名誉市民、福山市名誉市民、
勲一等瑞宝章、勲一等旭日大綬章

経　歴

生：明治21年（1888年）12月23日、広島県福山東堀端（現福山市城見町）生まれ

没：昭和59年（1984年）5月28日、享年96歳

明治31年（1898年）3月	9歳	米屋町の広島県深安郡福山町尋常小学校卒業
明治35年（1902年）3月	13歳	広島県深安郡福山町高等小学校卒業
明治40年（1907年）3月31日	18歳	広島県立福山中学校（誠之館）卒業
明治40年（1907年）8月	18歳	第一高等学校一部甲入学
明治43年（1910年）7月	21歳	第一高等学校卒業
大正3年（1914年）7月	25歳	東京帝国大学法科大学経済学科卒業
大正3年（1914年）7月31日	25歳	東京帝国大学法科大学経済学科助手
大正5年（1916年）9月1日	27歳	東京帝国大学法科大学経済学科助教授
大正8年（1919年）4月1日	30歳	東京帝国大学経済学部勤務
大正8年（1919年）8月10日	30歳	大原社会問題研究所常務理事
大正8年（1919年）12月	30歳	『経済学研究』に「クロポトキンの社会思想の研究」を発表
大正9年（1920年）1月10日	31歳	森戸事件、東京帝国大学休職
大正9年（1920年）1月14日	31歳	朝憲紊乱罪で起訴される
大正9年（1920年）10月12日	31歳	新聞紙法違反、森戸事件が有罪となる
大正9年（1920年）10月22日	31歳	刑事裁判確定により東大を退官
大正9年（1920年）10月	31歳	大原社会問題研究所に勤務
大正9年（1920年）12月～ 大正10年（1921年）2月	31～ 32歳	巣鴨監獄に入る
大正10年（1921年）3月～ 大正12年（1923年）8月10日	32～ 34歳	大原社会問題研究所より経済学・社会問題研究のため英独仏露へ留学

昭和16年(1941年)	52歳	大原社会問題研究所常務理事
昭和20年(1945年)11月5日	56歳	憲法研究会会合
昭和21年(1946年)4月10日	57歳	衆議院議員に当選(第1回)
昭和21年(1946年)8月10日	57歳	教育刷新委員会委員
昭和22年(1947年)1月22日	58歳	給与審議会委員
昭和22年(1947年)4月25日	58歳	衆議院議員に当選(第2回)
昭和22年(1947年)6月1日	58歳	片山内閣成立、文部大臣
昭和23年(1948年)3月10日	59歳	芦田内閣成立、文部大臣
昭和23年(1948年)4月27日	59歳	国立国会図書館連絡調整委員会委員
昭和23年(1948年)10月15日	59歳	文部大臣辞職
昭和24年(1949年)1月23日	60歳	衆議院議員に当選(第3回)
昭和24年(1949年)9月	60歳	教育美術振興会会長
昭和25年(1950年)4月15日	61歳	衆議院議員辞職
昭和25年(1950年)4月19日	61歳	文部教官に採用、広島大学学長(兼広島文理科大学長)
昭和25年(1950年)5月15日	61歳	誠之館で講演会　(出典3)
昭和26年(1951年)1月20日	62歳	日本学術会議会員(第2期)
昭和26年(1951年)9月1日	62歳	財団法人労働医学心理学研究所理事
昭和26年(1951年)12月8日	62歳	誠之館で講演会　(出典3)
昭和27年(1952年)6月20日～7月10日	63歳	社会教育審議会(労働者教育文化審議会)臨時委員
昭和27年(1952年)8月1日	63歳	日本ユネスコ国内委員会副会長併任
昭和28年(1953年)1月26日	64歳	広島大学教育長講習「町村教育委員会教育講習」講師併任
昭和28年(1953年)6月1日～昭和30年(1955年)5月31日	64～66歳	大学設置審議会委員併任
昭和28年(1953年)9月1日	64歳	財団法人労働科学研究所理事
昭和28年(1953年)9月10日～昭和30年(1955年)1月25日	64～66歳	中央教育審議会専門委員(第1期)
昭和29年(1954年)1月20日	65歳	日本学術会議会員(第3期)
昭和29年(1954年)10月10日	65歳	誠之館で講演会　(出典8)
昭和29年(1954年)10月22日	65歳	第8回ユネスコ総会(ウルグアイ)日本代表
昭和30年(1955年)1月25日～昭和32年(1957年)1月24日	66～68歳	中央教育審議会委員(第2期)
昭和30年(1955年)2月26日	66歳	広島大学学長選出

昭和30年(1955年)6月1日～ 昭和32年(1957年)5月31日	66～ 68歳	大学設置審議会委員併任
昭和30年(1955年)8月1日	66歳	日本ユネスコ国内委員会併任
昭和30年(1955年)9月1日	66歳	日本ユネスコ国内委員会副会長併任
昭和31年(1956年)12月25日	68歳	第9回ユネスコ総会(インド)日本代表
昭和32年(1957年)1月20日	68歳	日本学術会議会員(第4期)
昭和32年(1957年)3月12日～ 昭和34年(1959年)3月11日	68～ 70歳	中央教育審議会委員(第3期)
昭和32年(1957年)6月1日～ 昭和34年(1959年)5月31日	68～ 70歳	大学設置審議会委員併任
昭和33年(1958年)9月5日	69歳	日本ユネスコ国内委員会副会長
昭和33年(1958年)10月14日	69歳	第10回ユネスコ総会(パリ)日本代表顧問
昭和34年(1959年)3月	70歳	労働科学研究所理事長
昭和34年(1959年)4月1日	70歳	広島大学学長
昭和34年(1959年)4月14日～ 昭和36年(1961年)4月13日	70～ 72歳	中央教育審議会委員(第4期)
昭和34年(1959年)5月10日	70歳	誠之館で記念祭講演会　(出典3)
昭和34年(1959年)10月1日～ 昭和36年(1961年)	70～ 72歳	日本ユネスコ国内委員会会長
昭和35年(1960年)3月～ 昭和55年(1980年)5月	71～ 91歳	全日本社会教育連合会会長
昭和36年(1961年)4月	72歳	全国放送協会研究会連盟理事長
昭和36年(1961年)4月16日～ 昭和38年(1963年)3月31日	72～ 74歳	中央教育審議会委員(第5期)
昭和36年(1961年)10月25日～ 昭和38年(1963年)10月24日	72～ 74歳	国語審議会委員
昭和37年(1962年)1月	73歳	日米文化教育研究会議首席代表(昭和45年まで5回)、同代表(昭和49年まで2回)
昭和37年(1962年)3月27日	73歳	アジア地域ユネスコ加盟国文部大臣会議顧問
昭和37年(1962年)4月1日	73歳	広島大学・広島文理科大学長の併任解除
昭和37年(1962年)10月14日	73歳	願により大学設置審議会委員を免ずる
昭和38年(1963年)1月～ 昭和46年(1971年10月	74～ 82歳	能力開発研究所理事長
昭和38年(1963年)2月	74歳	英語教育協議会理事
昭和38年(1963年)3月31日	74歳	広島大学学長辞職

昭和38年(1963年)4月～ 昭和47年(1972年)3月	74～ 83歳	日本育英会会長
昭和38年(1963年)4月	74歳	日本放送協会学園高等学校校長
昭和38年(1963年)4月	74歳	広島商科大学名誉学長
昭和38年(1963年)5月14日	74歳	広島大学名誉教授
昭和38年(1963年)5月24日～ 昭和40年(1965年)5月23日	74～ 76歳	中央教育審議会会長(第6期)
昭和38年(1963年)9月	74歳	広島市名誉市民
昭和38年(1963年)11月～ 昭和46年(1971年)7月	74～ 82歳	社会教育審議会委員
昭和39年(1964年)1月	75歳	国語審議会委員
昭和39年(1964年)6月～ 昭和54年(1979年)10月	75～ 90歳	日本図書館協会会長
昭和39年(1964年)10月～ 昭和41年(1966年)1月	75～ 77歳	国語審議会会長
昭和39年(1964年)11月3日	75歳	勲一等瑞宝章
昭和40年(1965年)5月28日～ 昭和42年(1967年)5月27日	76～ 78歳	中央教育審議会会長(第7期)
昭和40年(1965年)5月28日	76歳	国際大学協会第4回総会東京組織委員会会長
昭和41年(1966年)2月15日	77歳	第3回日米文化教育会議日本側代表
昭和41年(1966年)4月1日	77歳	東京都立高等学校選抜制度改善審議会委員を委嘱される
昭和41年(1966年)4月15日～ 昭和43年(1968年)11月26日	77～ 79歳	明治百年記念準備会議委員
昭和42年(1967年)2月～ 昭和55年(1980年)6月	78～ 91歳	東京都青少年とともにすすむ運動推進協議会会長
昭和42年(1967年)7月1日～ 昭和46年(1971年)7月3日	78～ 82歳	中央教育審議会会長(第8期)
昭和43年(1968年)7月	79歳	日本ユネスコ国内委員会名誉会長
昭和43年(1968年)11月15日	79歳	大学問題懇談会委員
昭和44年(1969年)7月4日～ 昭和46年(1971年)7月3日	80～ 82歳	中央教育審議会会長(第9期)
昭和46年(1971年)11月～ 昭和54年(1979年)11月	82～ 90歳	誠之舎理事長
昭和46年(1971年)11月	82歳	文化功労者顕彰
昭和46年(1971年)11月10日	82歳	福山市名誉市民
昭和48年(1973年)12月	84歳	松下視聴覚研究財団理事長

昭和49年(1974年)4月29日	85歳	勲一等旭日大綬章
昭和50年(1975年)6月～ 昭和55年(1980年)6月	86～ 91歳	日本教育学会会長
昭和52年(1977年)6月～ 昭和54年(1979年)6月	88～ 90歳	特殊教育百年記念会会長
昭和55年(1980年)6月	91歳	日本教育会名誉会長

生い立ちと学業、業績

郷土が誇る日本的名士であり、福山市が生んだ偉大な先覚者である。

旧福山藩剣術師範森戸鸞蔵の子(姉3人)として生まれた。氏の回想録によれば、貧しい没落士族の生活であったが、武家の家庭特有の苦難に耐える伝統的精神があり、それが生涯の生きる力となったという。

町立の幼稚園から米屋町の尋常小学校、三之丸町の男子高等小学校を経て、明治35年(1902年)、県立福山中学校(誠之館)に入学した。在学中は、学業・性行・体育ともにすぐれ、弁論・剣道に於ては抜群の技能を示した。また端艇遠漕も楽しい思い出であった。特に福中教育における建学以来の「誠の道」の理念が、氏の人間形成の上で最大の要素となったことは、「人間の館『誠之館』」という氏のことばによっても明らかである。

そのほかに、福中時代の聖公会での受洗や、一高時代の新渡戸稲造氏の影響によるキリスト教的思想も、それまでの家庭の武士道的伝統、中学の「誠之」の精神とともに、氏の人道的精神形成の糧となった。

福山中学を卒業後、一高を経て大正3年(1914年)7月東京帝国大学法科大学経済学科を卒業、高野岩三郎教授の門下生として直ちに助手に任命され、大正5年(1916年)9月、助教授(社会政策学担当)となった。

大正8年(1919年)年4月、東京帝大では、分科大学制の廃止に伴い、旧法科大学の経済・商業両学科が、経済学部として独立した。この独立を機に大正8年(1919年)12月に、学部の機関誌『経済学研究』が創刊されたが、これに森戸助教授の「クロポトキンの社会思想の研究」という論文が掲載されたのである。

これを見た同大学の右派学生団体「興国同志会」は、「この論文は、学術研究にあらず。純然たる無政府主義の宣伝だ。」と、指摘糾弾した。また内務省・文部省も、それを問題視した。山川健次郎総長は、文部省の示唆をうけ、機関誌を回収する一方、森戸助教授に遺憾の意を書面にしたため、辞職するよう説得したが、氏はこれに応じなかった。経済学部教授会は議論の末、大正9年(1920年)1月10日、森戸助教授の休職を決定し、内定していた外国留学の

予定も取り消した。

強硬姿勢をとる司法省検事局は、「新聞紙法」(明治42・5・6の法律第41号)の「朝憲紊乱罪」(同法第42条)によって、1月14日、森戸助教授のみならず、編集発行人の大内兵衛助教授をも起訴した。これに対し、経済学部学生および法学部学生はそれぞれ大会を開き、「吾人は学問の独立を期す。」「経済学部教授会および大学総長の反省をうながす。」と、決議した。

裁判の結果、3月3日第一審有罪、6月29日控訴審でも有罪判決、10月22日大審院において上告棄却、森戸助教授は禁錮3カ月罰金70円の実刑、大内助教授は禁錮2カ月罰金20円執行猶予2年の判決を受けた。そして、森戸助教授は、大学の教職から追われた。これがいわゆる「森戸事件」であり、まさに大学のてん落のさきがけとして、一世を震撼させた。

大正9年(1920年)10月、東大退官後、高野岩三郎博士の大原社会問題研究所に入って研究員となり、経済学・社会問題研究のため、英独仏露諸国へ留学した。大正12年(1923年)8月に帰国してからは、第二次世界大戦中同所の機能が停止されるまで、一貫して社会政策、労働問題の研究と論述に専念するかたわら、論壇で華々しく活躍した。昭和16年(1941年)以降、同所の常務理事として、実務面での担当者をも兼ねた。そして、戦争中も清貧の中にあって、にらまれながらも清節を曲げなかった。

戦後は、昭和20年(1945年)11月、日本社会党の結成に参加して入党、翌昭和21年(1946年)4月、郷里広島県3区から衆議院議員に当選(以後連続3期当選)し、社会党右派の理論的指導者として活躍した。また、社会保険制度調査会、教育刷新委員会、給与審議会の各委員を歴任した。

昭和22年(1947年)6月、片山内閣成立にあたって文部大臣として入閣し、さらに翌昭和23年(1948年)3月の芦田内閣にも、文部大臣として再任され、同年10月19日まで在職し、連合国軍占領下での教育民主化政策を指導した。昭和22年(1947年)6・3学校制度の発足、昭和23年(1948年)公選教育委員会の設置など、重要施策をつかさどった。

昭和24年(1949年)6月、広島大学の発足にあたって学長に推され、「日本の民主化は、人間をつくることである。その人間は、大学でつくらねばならぬ。」といって、日本社会党を離れて衆議院議員を辞職し、昭和25年(1950年)4月、広島大学学長に就任した。昭和38年(1963年)3月までその職にあって、初代学長として新制広島大学の基盤を確立するのに貢献した。学長退官の昭和38年5月、広島大学名誉教授となった。

同年4月以後は、昭和47年(1972年)まで日本育英会会長を務めるかたわら、国際交流(日本ユネスコ国内委員会会長)や放送教育(NHK 学園高等学校校長)の振興や、昭和41年(1966年)の「期待される人間像」答申など、戦後教育改革の手直しに取り組んだ。

また、学長在任中の昭和28年(1953年)9月から、文部大臣の政策立案諮問機関である中央教育審議会に参加し、昭和38年(1963年)5月から昭和46年(1971年)7月まで連続4期

にわたり、その会長を務めた。特に昭和46年（1971年）6月には、「第三の教育改革」案と評された第22回答申「今後における学校教育の総合的な整備のための基本的施策について」（四六答申）をまとめあげるうえで、中心的役割を果たした。

昭和46年（1971年）教育者としての長年の功績によって、文化功労者表彰を受け、また同年10月、福山市は福山市政55周年を記念する行事として、福山市名誉市民に推挙してその栄誉をたたえた。

誠之館高校講堂の外壁正面に掲げられている「誠之講堂」の題字は、氏の揮毫によるものである。

著書には、『クロポトキンの片影（大正10年）』、『近世社会主義思想史（大正10年）』、『思想と闘争（大正14年）』、『社会科学研究の自由に関して青年学徒に訴う（大正14年）』、『思想の遍歴（上・昭和47年、下・昭和50年）』などがある。

勲一等瑞宝章、勲一等旭日大綬章受章。昭和59年（1984年）5月28日、96歳という高齢で波乱に充ちた生涯を終えた。　　石井和佳（昭和25年卒）

昭和34年10月1日、福山市の田尻漁業協同組合に建つ「藻貝の養殖記念碑」を撰文した。

一族に森戸隆三（陸軍少将）がいる。

誠之館所蔵品

管理№	氏　名	名　称	制作／発行	日　付
02167	森戸辰男　書	扁額「論語（学而不思）」	―	―
04391	森戸辰男　書	扁額「論語（無信不立）」	―	昭和28年
04322	森戸辰男　書	扁額「礼記（和為貴）」	―	昭和28年
02166	森戸辰男　書	扁額「誠之講堂」	―	昭和45年
03902	森戸辰男　著	『近世社会主義思想史』	我等社	大正10年
03899	森戸辰男　著	『クロポトキンの片影』	同人社書店	大正10年
03903	森戸辰男　著	『エンゲル　ベルギー労働者家族の生活費』	第一出版（株）	昭和22年
03904	森戸辰男　著	『オウエン　モリス』	岩波書店	昭和23年
06586	森戸辰男　著	『教育と私－文化功労者の顕彰を受けて－』	―	昭和46年
03900	森戸辰男　著	『思想の遍歴（上）－クロポトキン事件前後』	春秋社	昭和47年
03901	森戸辰男　著	『思想の遍歴（下）－社会科学者の使命と運命』	春秋社	昭和50年
00389	森戸辰男　著	『教育を考える』	森戸辰男	昭和50年

06768	森戸辰男 著	「私の履歴書 森戸辰男」(日本経済新聞切り抜き)	日本経済新聞	昭和51年
03094	葛原先生童謡碑建設委員会 編	『ニコピン先生葛原しげる追悼録』、追加頁、「除幕式祝辞(森戸辰男)」	葛原先生童謡碑建設委員会	昭和39年
03048	福山市市長公室 編	『地方都市の課題ー福山市のコミュニティづくりー』、161頁、「見直そう日本の心 我が心にふるさとを持とうー座談会(森戸辰男ほか)」	福山市市長公室	昭和53年
02060	森戸辰男 著 福山誠之館同窓会 編	「「誠之館」の想い出ー「人間の館」としてー」『懐古ー誠之館時代の思い出ー』、1頁	福山誠之館同窓会	昭和58年
04661	森戸文書研究会 編	『広島大学所蔵 森戸辰男関係文書目録(上下)』	広島大学	平成14年
06507	安川悦子ほか著	『地域の力・地域の文化ー多元都市「福山」の可能性ー』、3頁、「森戸辰男における「理想の社会」ーオウエン、モリス、クロポトキン研究を通してー(安川悦子)」	児島書店	平成22年

出典1:『政治経済文化備後綜合名鑑』、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和34年9月
出典2:『誠之館百三十年史(上巻)』、742,763,778,782,784,786,797,991,1056 頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日
出典3:『誠之館百三十年史(下巻)』、94,174,179 頁、福山誠之館同窓会編刊、平成元年3月31日
出典4:『日本現近代人名辞典』、吉川弘文館編刊、2002年
出典5:『現代日本・朝日人物事典』、朝日新聞社編刊、1990年
出典6:『広島大学所蔵森戸辰男関係文書目録(上下)』、森戸文書研究会編刊、平成14年(2002年)9月10日
出典7:『誠之舎ー戦争と占領下の一学生寮の記録ー』、文集『誠之舎』編集委員会編、誠之舎潺潺会刊、昭和60年6月28日
出典8:『昭和29年度校務日誌』、福山誠之館高等学校、昭和29年
出典9:「私の履歴書 森戸辰男(日本経済新聞)」、森戸辰男著、日本経済新聞社発行、昭和51年2月
出典10:『福山のいしぶみ散歩』、64頁、佐野恒男著、福山市文化財協会刊、1993年5月12日

2004年11月11日更新:所蔵品●2004年11月30日更新:所蔵品●2005年4月19日更新:経歴・所蔵品●2005年10月19日更新:所蔵品●2006年6月29日更新:タイトル・所蔵品●2006年12月13日更新:経歴・所蔵品・関連情報・出典●2007年6月21日更新:本文・関連情報●2007年8月10日更新:関係資料●2007年11月19日更新:経歴・本文・関連情報削除・出典●2008年7月29日更新:経歴・関連資料●2008年8月21日更新:経歴・出典●2009年3月16日更新:誠之館所蔵品●2009年7月7日更新:関連資料●2009年12月25日更新:誠之館所蔵品●2010年7月15日更新:本文・誠之館所蔵品・探しています・関連資料(削除)●2011年3月3日更新:本文・誠之館所蔵品●2011年10月26日更新:経歴・誠之館所蔵品・出典●2012年2月14日更新:本文・探しています・出典●